

総務教育環境委員会行政視察報告書

現地視察における調査結果について、下記のとおり報告します。

令和8年2月19日

光市議会議長 森戸 芳史 様

総務教育環境委員会

委員長 河村 龍男

副委員長 藤川 みゆき

委員 仲小路 悦男

委員 中村 譲

委員 中本 和行

委員 仲山 哲男

委員 林 節子

委員 森戸 芳史 (議長)

委員 早稲田 真弓

随 行 山本 大輔

記

- 1 視察年月日 令和8年1月14日 (水)
- 2 視察場所 光丘高校跡地
施設一体型小中一貫やまと学園
- 3 視察調査結果 別紙のとおり

総務教育環境委員会行政視察調査結果

日 時	令和8年1月14日（水）9:45～11:30
市町村名	光市
テーマ	浅江中学校移転改修事業及び施設一体型小中一貫やまと学園施設整備事業の進捗確認
視察場所	光丘高校跡地及び施設一体型小中一貫やまと学園
応対者	光市教育委員会 伊藤教育長 小山教育部長 加川教育部次長兼教育総務課長 吉永ひかり学園推進課長 河合ひかり学園推進係長



浅江中学校移転のため旧光丘高校の校舎等の改修を進め、ほぼ建築工事を終えた状況と今後のことについての視察を行なった。

1 視察概要

浅江中学校移転改修事業は、コミュニティ・スクールを核とした「地域教育力日本一」や小中一貫教育の更なる推進、部活動の地域移行に対応する新たな活動拠点の構築、安全・安心な教育環境の整備といった4つの新たな視点に基づき、単なる移転改修ではない、子どもたちの学びをより豊かなものにする学校施設をつくることを目指し改修を進めてきた。

こうした視点から新たに創り出された生徒・地域交流ゾーンや学びの創造ゾーン、創

作ゾーンなどがどのように形作られたのか、視察をとおして理解を深めた。

また、施設一体型小中一貫やまと学園施設整備事業については、令和8年度の校舎等建設に先行し農道や市道の拡幅工事、購入した用地の造成工事等を行っており、現在の進捗を現地で確認し、工事完工後のイメージを共有した。

(1) 浅江中学校移転改修事業

【整備の方針】

ア メリハリある改修

改修の際、4つの視点に基づき創り出されたゾーンを中心に、重点的な改修及び家具の新調等で魅力ある学びや交流の場などの空間づくりを進めた。

また、それ以外の諸室等については、床の研磨や劣化の進んでいる天井の一部更新などにより、コスト抑制と機能向上を両立させるなどメリハリのある改修とした。

イ 創り出されたゾーンの空間づくり（代表的なもの）

- ・技術室や調理・被服実習室などの創作ゾーンの活性化を図るため、廊下側の窓ガラスをすりガラスから透明ガラスに変更し、活動の見える化を進めた。
- ・普通教室3教室を1ユニットとして捉え、中央の1室の廊下側間仕切りを無くし交流スペースを新たに創ることで、生徒の交流や収納スペースを確保した。



- ・グループワークができる机やホワイトボードを配置し、柔軟で多様な学習を展開できる学びの創造教室を4箇所整備した。
- ・日常ではランチルームとして活用する諸室を非常時の避難所に変更できるよう整備するとともに、その動線上に多目的トイレの整備や調理・被服実習室を近接させたこと、さらには、1階フロアのバリアフリー化を進めるなど、浅江地区の新たな防災機能の一つとして整備を進めた。



ウ 木質化の推進

諸室プレートの木質化や入口付近の木製ルーバーの使用、さらには、普通教室内の腰板張りを整備するなど、既存校舎の改修の中で、可能な限りの木質化を推進し、木が持つ温かみのある空間づくりを創出した。



(2) 施設一体型小中一貫やまと学園施設整備事業

【整備概要】

令和8年度の校舎等新設工事時の生徒等学校関係者の登下校時の安全対策や、工事車両の動線の確保を図るため、校舎等新設に先行して周辺道路の拡幅工事等を行う。

以下の工事を同時進行で行っているため、生徒の通学動線を随時変更しているとのこと。その際には、工事関係者と連携し安全確保に努めるとともに、保護者への周知を徹底し、学校関係者との共有に努めている。

ア 塩田ほ場 132 号線農道整備

幅員 2.5m を 5m に拡幅し境界にフェンス設置予定

イ 市道周地 1 号整備

幅員を 9 m に拡幅及び歩道・側溝を整備し、歩車分離を進める。

ウ 市道周地助石線整備

幅員を 7 m に拡幅及び歩道・側溝整備を整備し、歩車分離を進める。

エ 造成工事

スクールバス乗降場エリアの盛り土造成、現グラウンド位置に校舎新設時には、仮グラウンドとして活用する。

オ 既存プールの解体

既存プール箇所が新校舎のエントランス及び駐車場になることから、事前にプールを解体し、工事区域を確保する。



各委員の所感

河村 龍男

新設のやまと学園と改装中の新浅江中学校の視察をお願いしたところ、教育委員会のご配慮により見学させていただきました。教育長はじめ幹部職員がおられ、職場は大丈夫ですかとお尋ねしました。

全体像として、さすがに高校の敷地は広いな、余分な空き地もきれいに整理され外観は素晴らしいなと好印象を持ちました。玄関を入ると学校事務・教師と生徒の入口が違いさすが高校の事務室は大きいなと、続く保健室、調理実習室（避難時炊出し）、技術室、防災倉庫、避難時畳スペース、ランチルーム等、地域との交流を考えた素晴らしい空間が広がっていました。2Fは職員室、生徒会室、学びの室、小学生との学びの室、フリースペースと十分すぎる配置で、3F・4Fは音楽室、理科室、普通教室と余るほどの教室配置で、これから少子化の中、狭いのも困りますが余るのも困る、学校現場では昔の古い教室はほかの活用方法で余っている教室は無いと聞きます。時代の変化と整理整頓の大切さを考えさせられました。新しい時代の学びを実現する学校施設の考え方の成果を見せて頂きたいと思いました。

新設施設一体型小中一貫やまと学園は、現在、進入路、駐車場部分の工事中でしたが、入り口から説明を受けました。グラウンド部分に校舎を建設し、校舎の跡地がグラウンドになる説明を受け、これからの進捗が楽しみではありますが、予算がついていけるのか不安との複雑な気持ちで、残る小中一貫校を含め予算の裏付を含めた計画が必要だと思いました。

藤川 みゆき

光丘高校跡地を活用した浅江中学校の移転については、4月からの運用開始に向け準備が進められている施設を視察しました。校舎は広く、ゆとりある空間で学べるため、生徒にとって精神的にも落ち着いて過ごせる環境だと感じました。部活動の地域移行を見据え、音楽室や和室、理科室なども充実しており、幅広い活動に十分活用できると見て取れ

ました。壁の色の選定に生徒の意見を取り入れている点や、オープンスペースを交流の場として活用できる点は、学年やクラスを越えたつながりを育む上で大変意義があります。また、避難所としてトイレや冷暖房設備を備えていることも心強く感じました。新しい時代を見据えた学校として、今後も安全で長く活用されることを期待します。

施設一体型小中一貫やまと学園建設中の視察では、農道の道路幅拡張工事や造成工事の状況を確認させていただきました。予定通り、問題なく完成することを願っています。

仲小路 悦男

光丘高校跡地は浅江中学校の大規模改修として実施され、建物内は概ね完了の状態、児童・生徒たちが活動している姿を思い浮かべながら、見る事ができた。改修の内容として、床など張り替えず、研磨してワックスをかけるなどできる限り現状を活用していることは適切だと思われる。また、壁なども木材を張るなど、費用を抑えながら、温かい仕上げとなっている。印象的なのは調理・被服実習室は、ガスコンロと流しが蓋をすることによって机として使える作りであり、更に机の下は空間になっており、教室後ろに、実習の内容ごとに道具などがキャスター付きの引き出しに収納されていて、必要に応じて机の横に持ってくる構造となっていることなどが挙げられる。備品も設置されてから、1日ぐらいかけて、じっくり見たいというのが実感である。

施設一体型小中一貫やまと学園は周辺道路やスクールバス乗り場の工事中であり、大まかなイメージがわかる程度の状態であった。

中村 譲

来年度より旧光丘高校に移転する浅江中学校、ならびに小中一貫やまと学園を視察しました。

やまと学園については、現在も既存校舎を活用しながら、新校舎建設に向けた準備段階として、周辺道路や駐車場など外構工事が進められていました。

浅江中学校では、学習環境の向上に向けた整備が進んでおり、旧光丘高校の施設を最大限有効利用されているところにとっても感心しました。今後は、通学時の安全対策や地域とのつながりにも十分配慮しつつ、ハード整備だけでなく教育内容や運営面を含め、子どもたちにとって最善の学びの場となるよう引き続き注視していきたいと考えます。

中本 和行

浅江中学校の移転について、施設改修工事が進められて完成間近になりました。多様な意見を聞いての協議を重ねられ「新しい学舎の教育施設」としての改修計画に基づき1階から4階まで、多様な空間を活用した活動拠点としての改修整備、最新の設備を備え地域の避難所、また、将来を担う子供たちの礎になるように願っています。

今後の、この活動拠点の施設活用は子供の教育だけでなく、人と人をつなぐ、浅江地区

のコミュニティの拠点としての役割を果たすことが求められる事から、完成後は早急に市民に、校舎見学を検討する事を望みます。また、どのように持続し活用するか期待しています。

更に、施設一体型小中一貫やまと学園について、工事の進捗状況を視察し、敷地南側の造成工事、市道、農道拡幅等が工事中であり、配置図を見ながら説明を聞きました。県道入り口他、生徒、歩行者の安全対策を考え工事が進むように願っております。

仲山 哲男

○浅江中学校移転改修事業の進捗確認

一昨年6月改修工事に入る前の元光丘高校の校舎等を視察した時の方針に沿って、ほぼ建築工事を終えた状況を確認しました。できる限り活かせるものは活かし、コストダウンを図る方針とはいうものの、印象としては、十分リニューアルできていて、フレッシュな気分での新たな学校として生徒を受け入れることができるものと感じられた。各種設備及び家具什器が設置され、イキイキと学び・育ちの場として、機能することに期待したい。

○施設一体型小中一貫やまと学園施設整備事業の進捗確認

新たなやまと学園として生まれ変わる校舎建設に向け、着実に造成工事が行われている状況を、現地で確認しました。工事費の増加が気掛かりだが、小中一貫ひかり学園第1弾として、トライしていることも多いので、今後につなげる粘り強いリカバリーも含め、後に続く他の一貫校に活かせるよう、しっかり検証しつつ進められることを、期待している。

林 節子

浅江中学校移転改修事業について、令和6年6月の委員会視察では、改修前の視察であり、さらに、光丘高等学校閉校後数年経ち使用されていない状態であったことから、施設の老化が更に際立っている感じがしたことを覚えています。

こうした中で、この度の視察では、浅江中学校の移転に向け校舎を中心とした概ねの改修が完了し、外壁塗装や内装の改良などにより建築後四十数年経った施設が見違えるほど変化したことに加え、令和6年6月に執行部よりお示しいただいた「浅江中学校移転改修事業について」に位置付けられていた、生徒の学びを豊かにする学びの創造ゾーンの整備や生徒と地域の皆さんがともに交流・活動できるスペースの設置、さらには、地域の防災拠点にもなるスペースや動線の確保など、「施設改修により創り出される空間」が形として現れており、既存施設の改修で限界がある中で様々な創意工夫が見られました。

浅江中学校は、学校と家庭、地域が一体となったコミュニティ・スクールの取組が先進的に展開されていますが、この度の改修により、この取組がどのように発展をされていくのか、とても期待しています。

施設一体型小中一貫やまと学園について視察しました。やまと学園の施設事業について

は、現在、大和中学校の周辺駐車場にするため、造成工事が行われています。今後に期待しています。

森戸 芳史

浅江中の移転について、「光丘高校跡地を活用した浅江中の移転について」で掲げた4つの視点についてしっかりと対応したりリニューアルが行われていると感じた。元々のモダンな建物を活かしながら、木を活用し温もりが演出され、職員室の寒さや窓からの転落防止などの課題も解決されている。敷地も広いので草刈りなど今後の維持管理コストの縮減に努めてほしい。

大和中の周辺工事については着実に進捗していることが確認できた。

早稲田 真弓

光丘高校跡地では、まず建物正面の「浅江中学校」の学校名が目に入り、いよいよ今年の4月からここに浅江中学校が移転するのだと実感がわいてきました。外壁には浅江カラーのえんじ色も使用してあり嬉しくなりました。学校内の廊下や各教室の床は貼り替えや研磨が行われており、老朽化していた渡り廊下や自転車置き場も整備されていたので安心しました。一番良かったのは体育館利用時にトイレを使用可能としたことです。給食庫や床配線を備えたOAルーム、窓への落下防止のストッパー取付などさまざまな工夫が見られ、また地域の方の活動スペースもあり、全体的に広々とした開放感のある施設となっていると感じました。また、駐車場やグラウンドも整備が進んでおり保護者や地域の方にも気持ちよく利用していただけたと思います。

次に施設一体型小中一貫やまと学園は、道路の拡幅工事など周辺の整備が行われていました。工事が安全で順調に進むことを願います。